

# 景況動向指数(Diffusion Index)

(2020年4月～6月見込み)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業（20事業所）

建 設 業（20事業所）

卸 小 売 業（20事業所）

飲 食 宿 泊 業（20事業所）

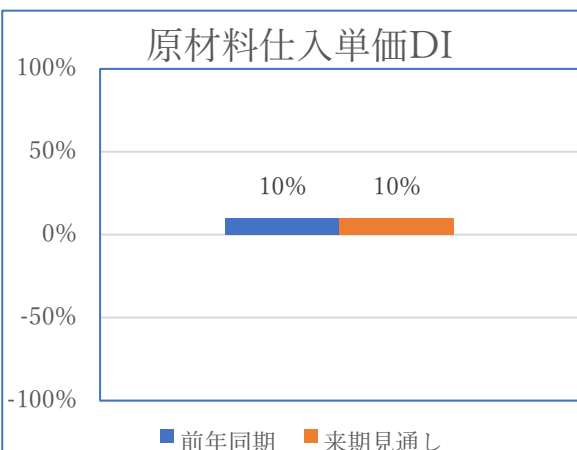
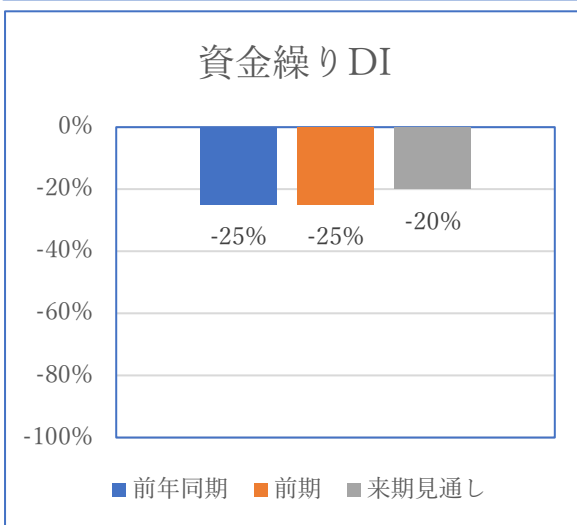
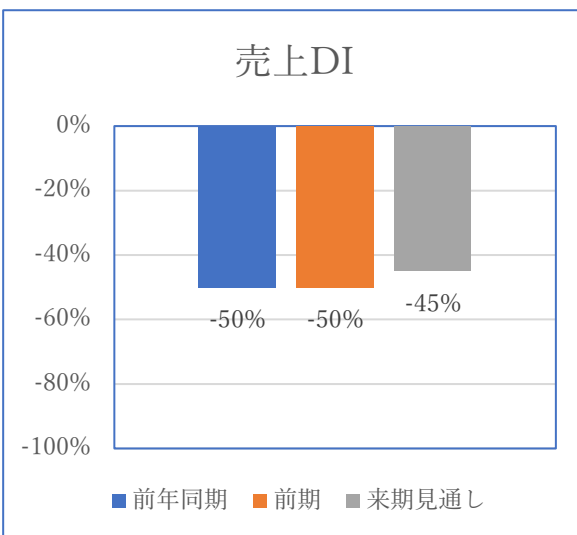
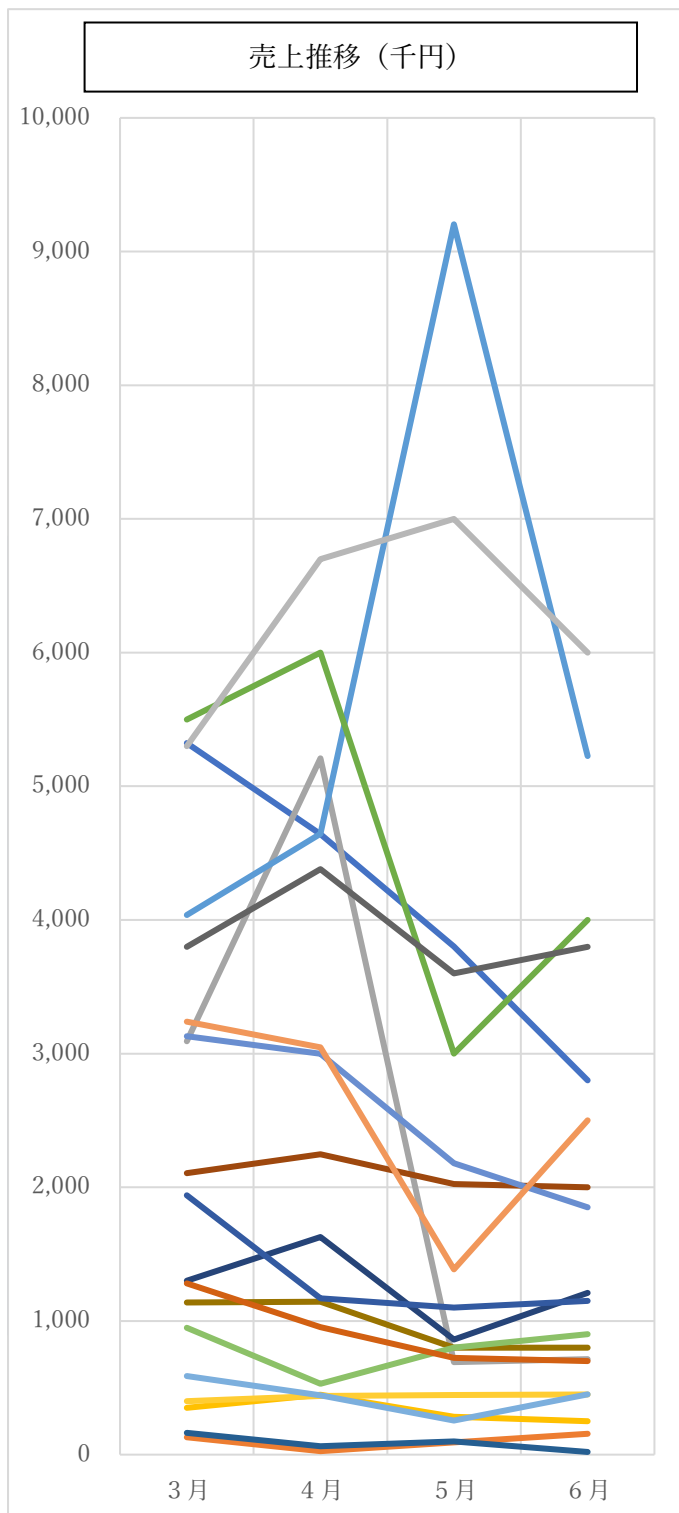
サ ー ビ ス 業（20事業所）

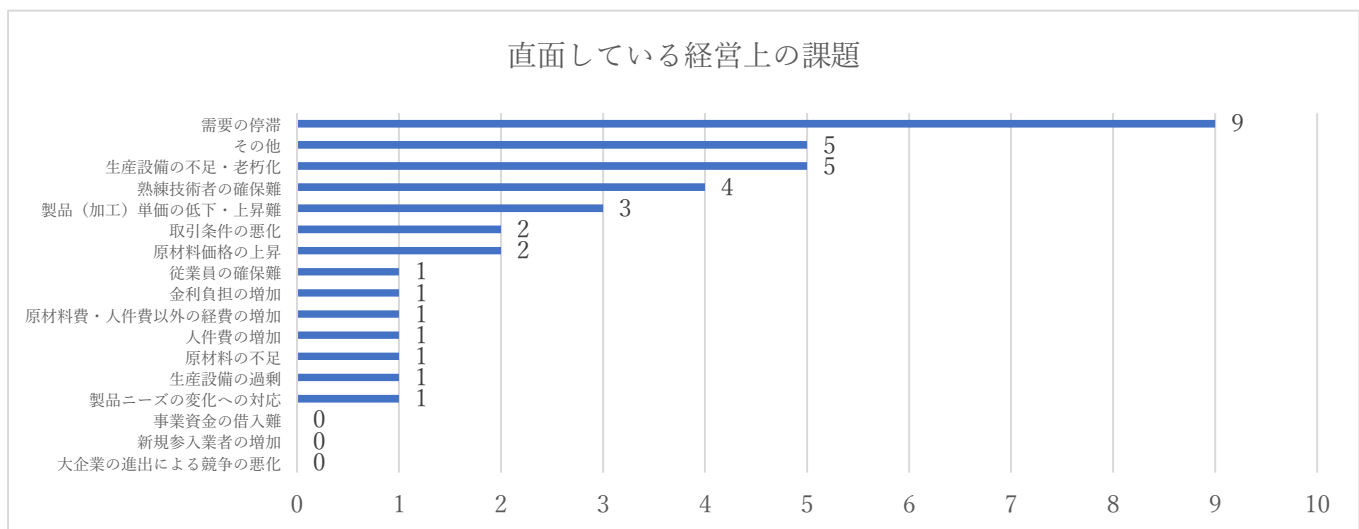
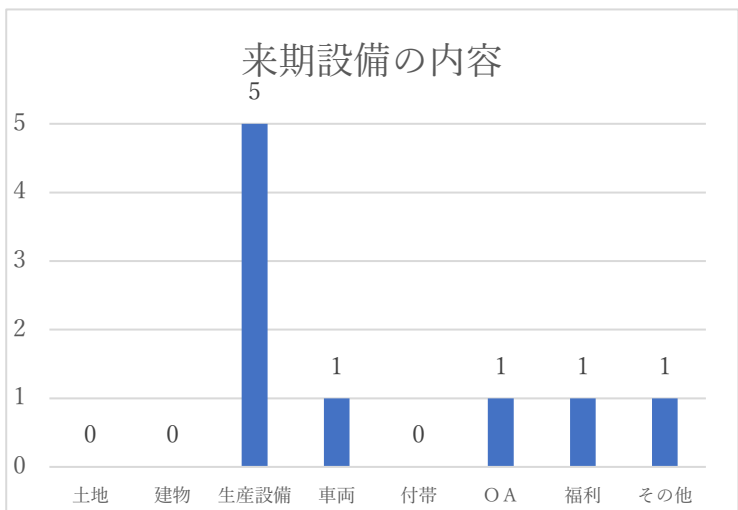
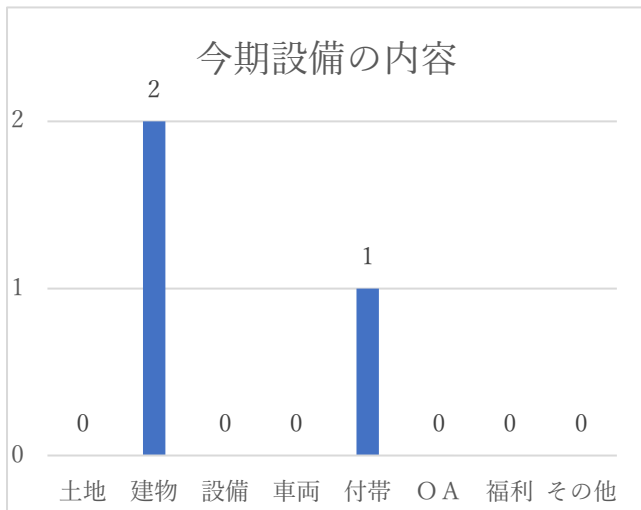
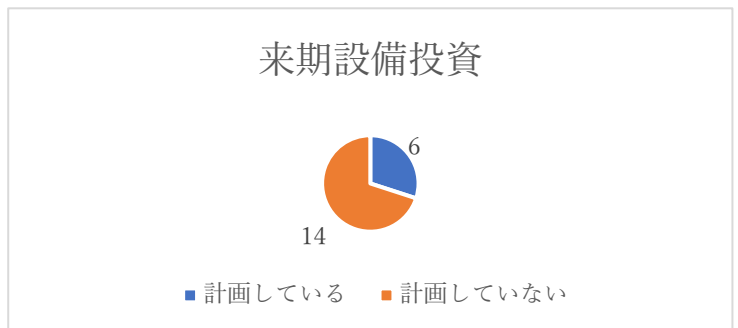
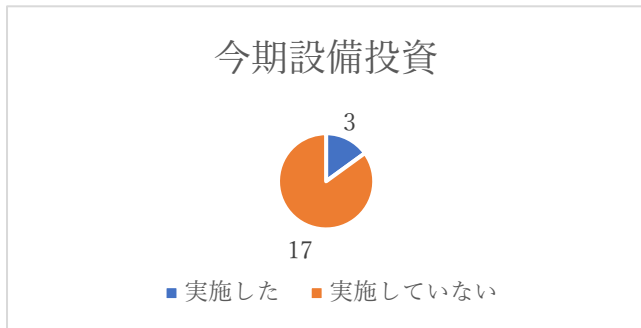
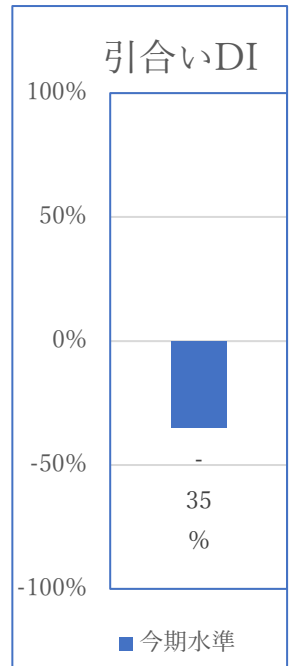
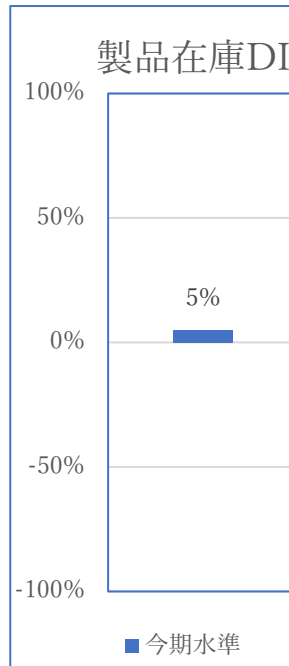
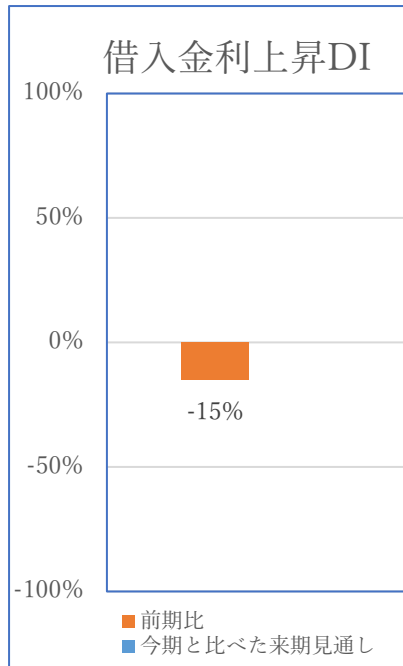
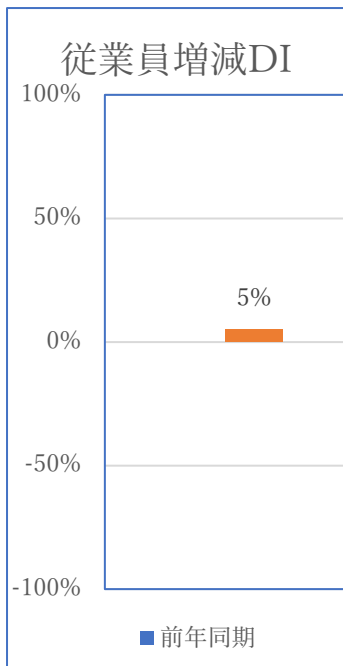
\*調査期間 2020年4月～6月見込み

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、足元で厳しい状況となっている。  
 売上DIは前年同期▲50、前期▲50、今後の見通しも▲45と低い水準にある。  
 資金繰りDIについても前期比前年同期比ともに▲25と低調である、原材料仕入単価DIについて10と、水準は下がっておらず売上低下の中収益を圧迫する環境である。  
 人材に関しては従業員DIについてはほぼ変動なしである。  
 借入金利DIについては▲15と調達金利は低下傾向が見受けられる。  
 今後の売上に繋がる引合いDIについて▲35と厳しい状況である。  
 設備投資について、足元では未実施の企業が多いが、来期に計画をしている企業が6社ある。内容としては、生産設備の投資を予定する企業が多い。  
 経営課題としては、需要低迷、生産設備老朽化、熟練技術者確保難を上げる企業が多い。

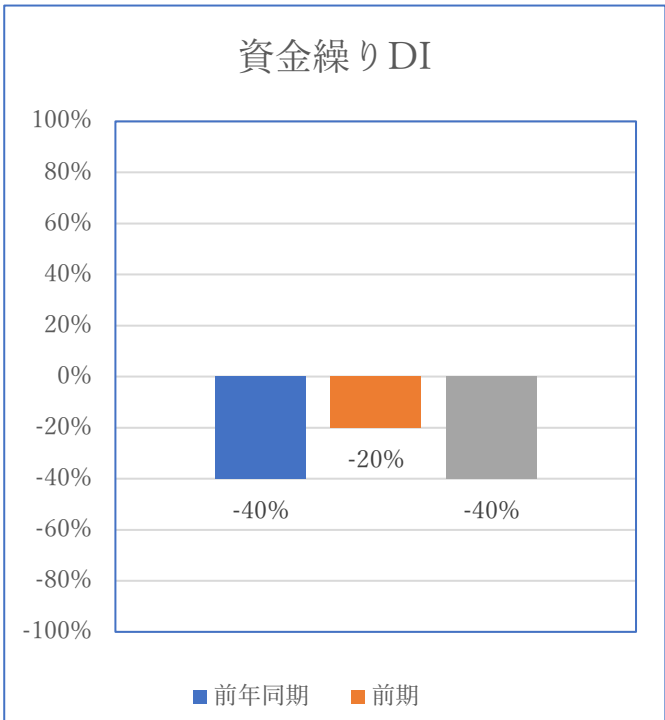
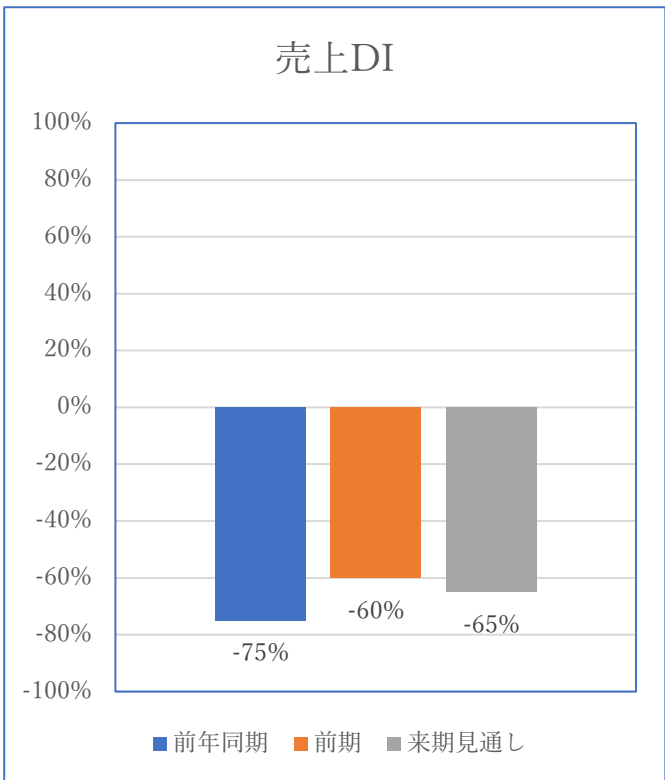
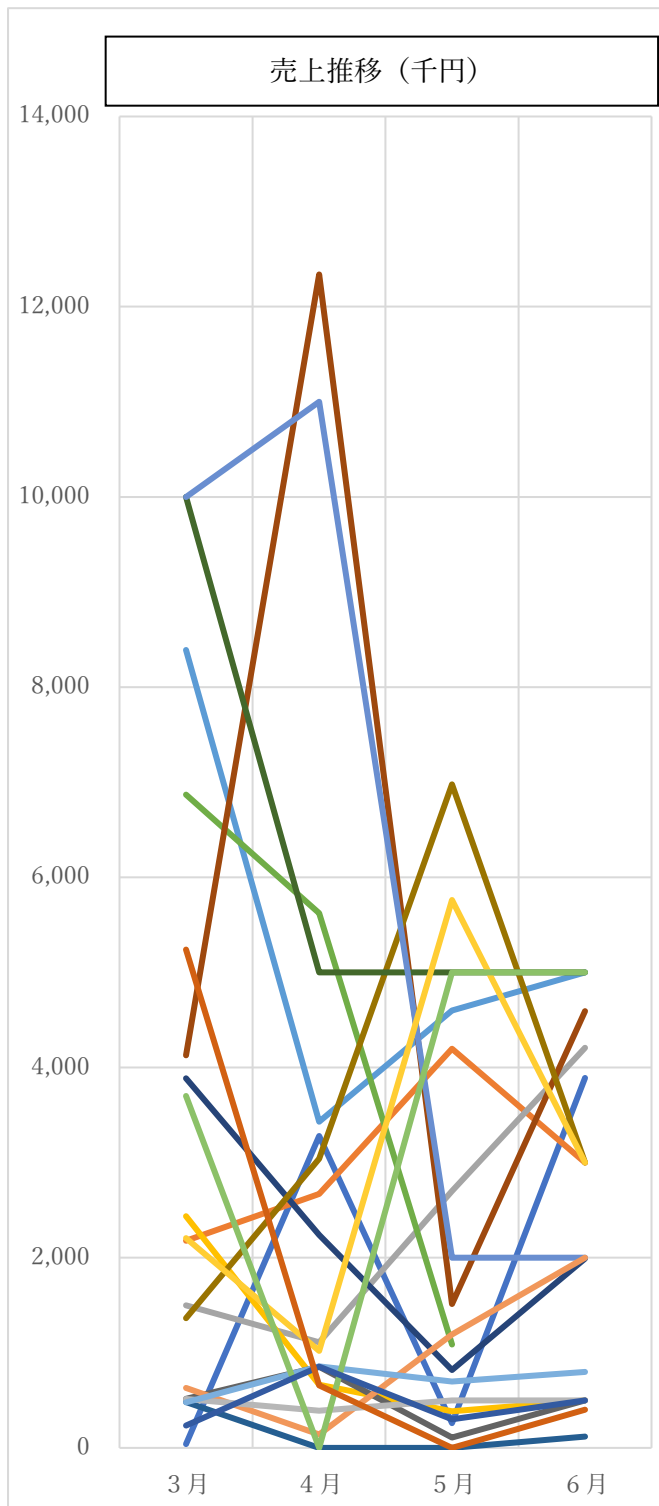


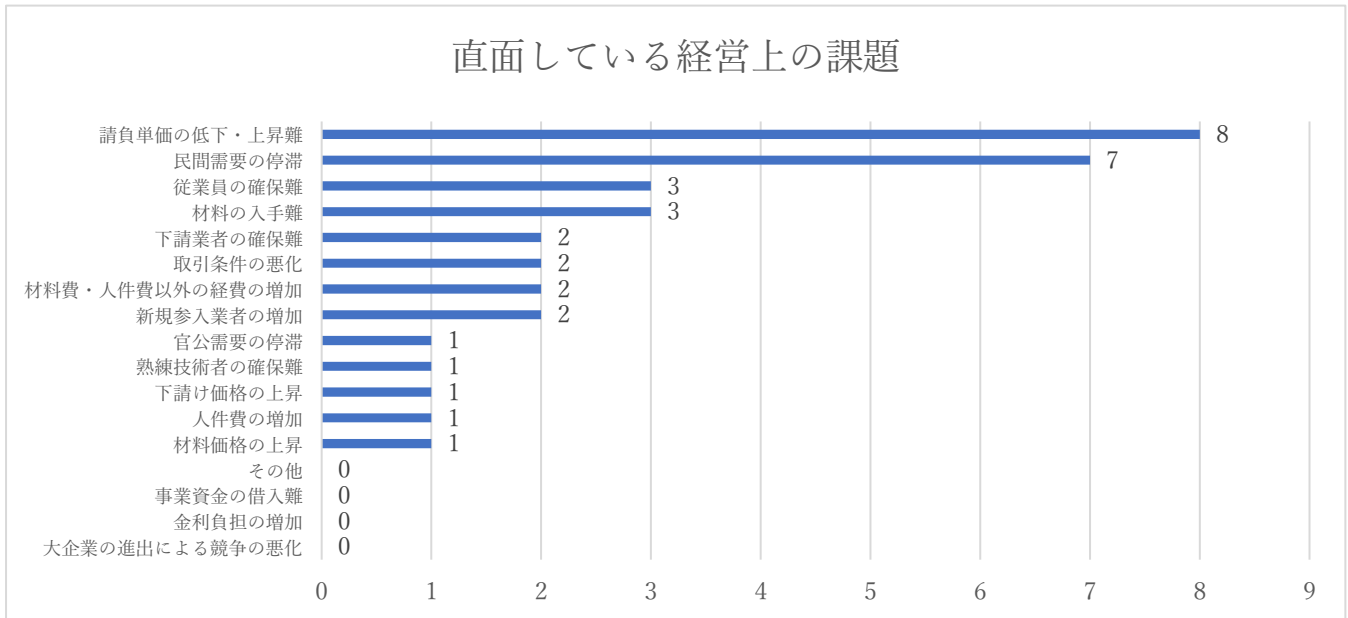
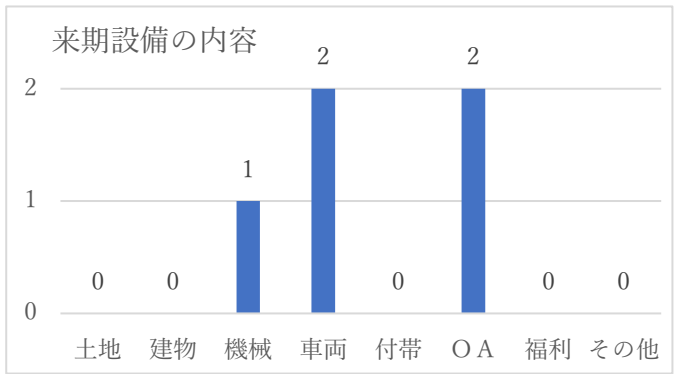
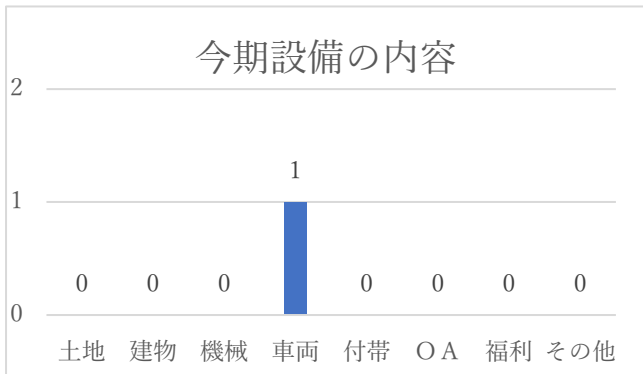
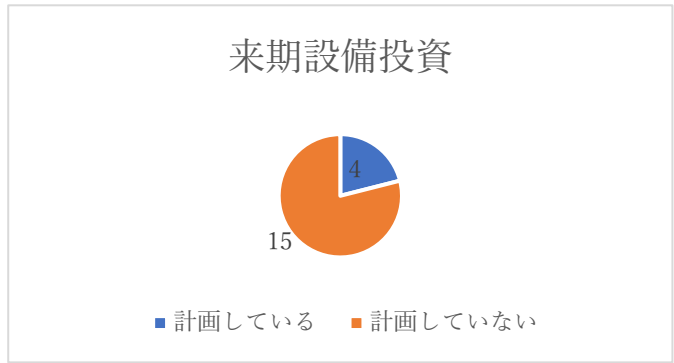
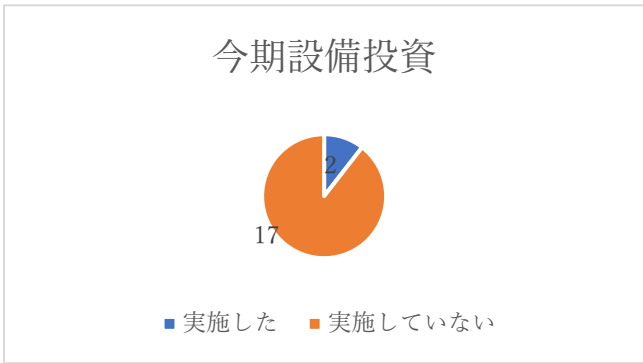
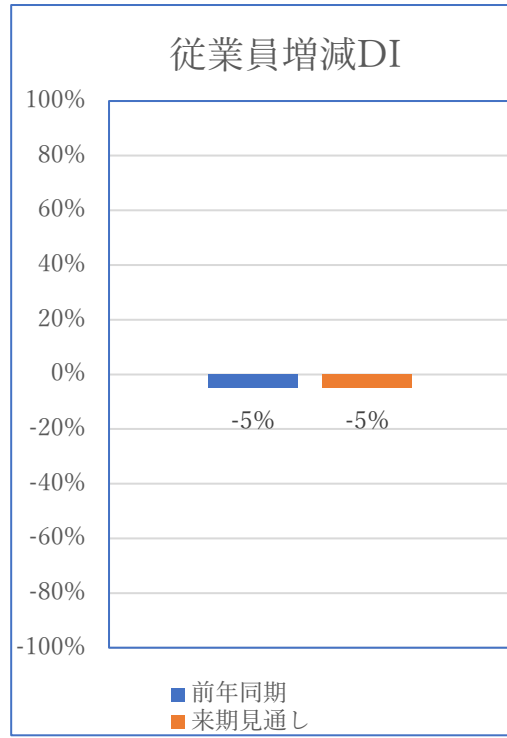
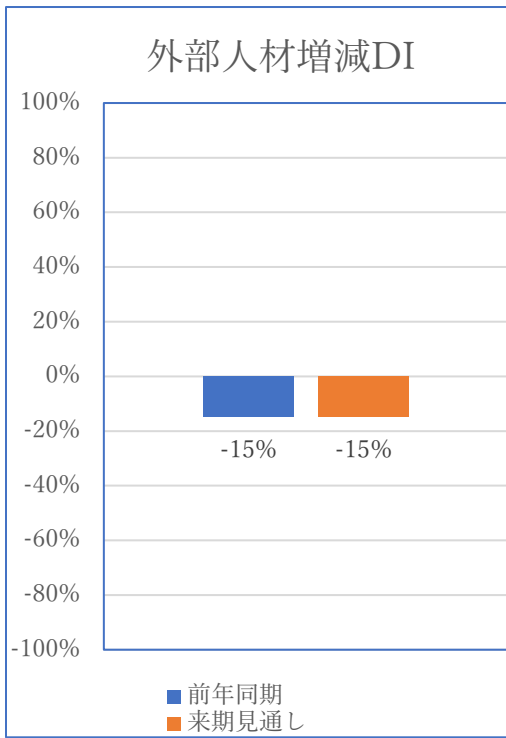


建設業（2020年4月～6月）DI値抜粋

コメント

建設業の採算に関するDIは、極めて厳しい状況となっている。  
 完成工事高DIは前年同期▲75、前期▲60、今後の見通しも▲65と過半数を超える事業者が減少となっている。  
 資金繰りDIについては前期比▲20と売上指標ほど悪化の傾向がないが、これは資金調達DIから見ても調達環境が悪化しておらず必要に応じてコロナ融資を調達して資金繰りを充足させている企業が多いことが考えられる。  
 人材に関しては従業員についてはほぼ変動なしであるが、外部人材については減少DIが▲15とあり、外部人材による労働力調整を行っていることがうかがえる。  
 設備投資について、現状も来期についても低調である。  
 経営課題としては、請負単価の低下、上昇難、民間需要の低迷を上げる企業が多い。



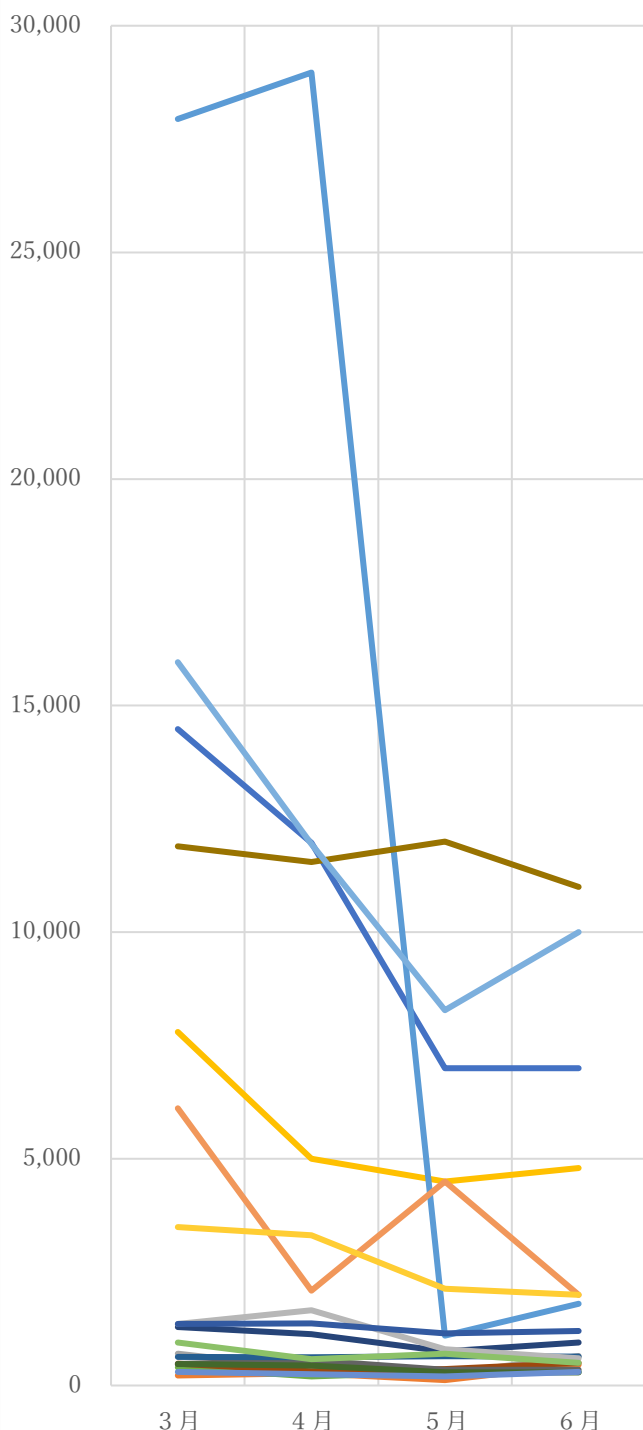


卸小売業（2020年4月～6月）DI値抜粋

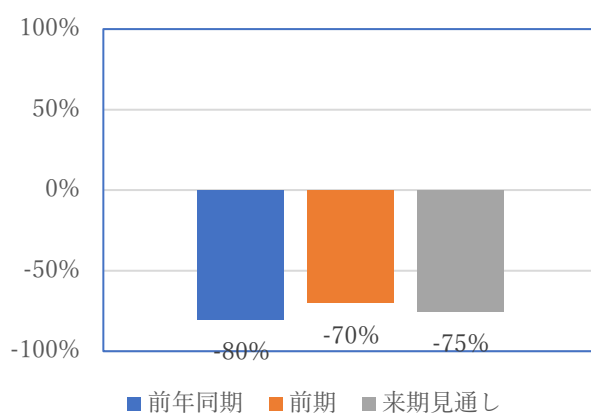
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、極めて厳しい状況となっている。  
 売上DIは前年同期▲80、前期▲70、今後の見通しも▲75と大多数の企業が売上の減少となっている。回復の足掛かりも見えていない。  
 資金繰りDIについては前期比▲45、前期▲40と足元で厳しい状況がうかがえ、来期は▲50とさらに厳しさを増す状況である。商品仕入額DIは前年同期▲45、来期▲35と、売上の低迷に対応して減少している。  
 人材に関しては従業員について、前年同期▲5、来期▲10と減少傾向である。  
 借入金については、借入難度のDIが前年同期▲15、来期見通し▲25と、業績悪化に伴い難しいと感じる企業が多い。  
 設備投資については、現状も来期についても低調である。  
 経営課題としては、消費者ニーズへの対応、販売単価低下を上げる企業が多いほか、購買力の他地域への流出を上げる企業も多い。

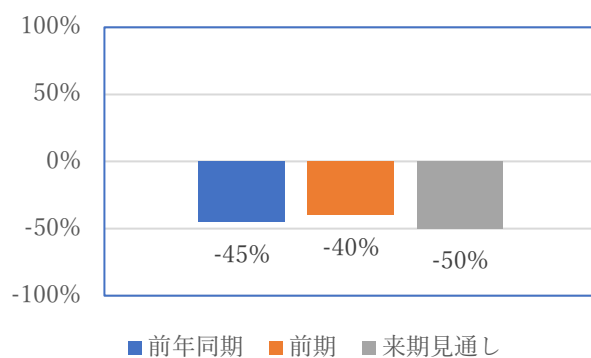
売上推移（千円）



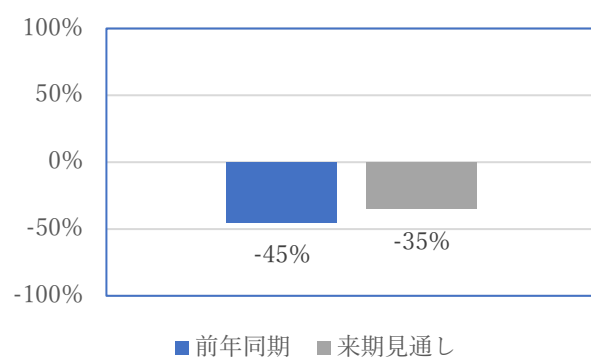
売上DI

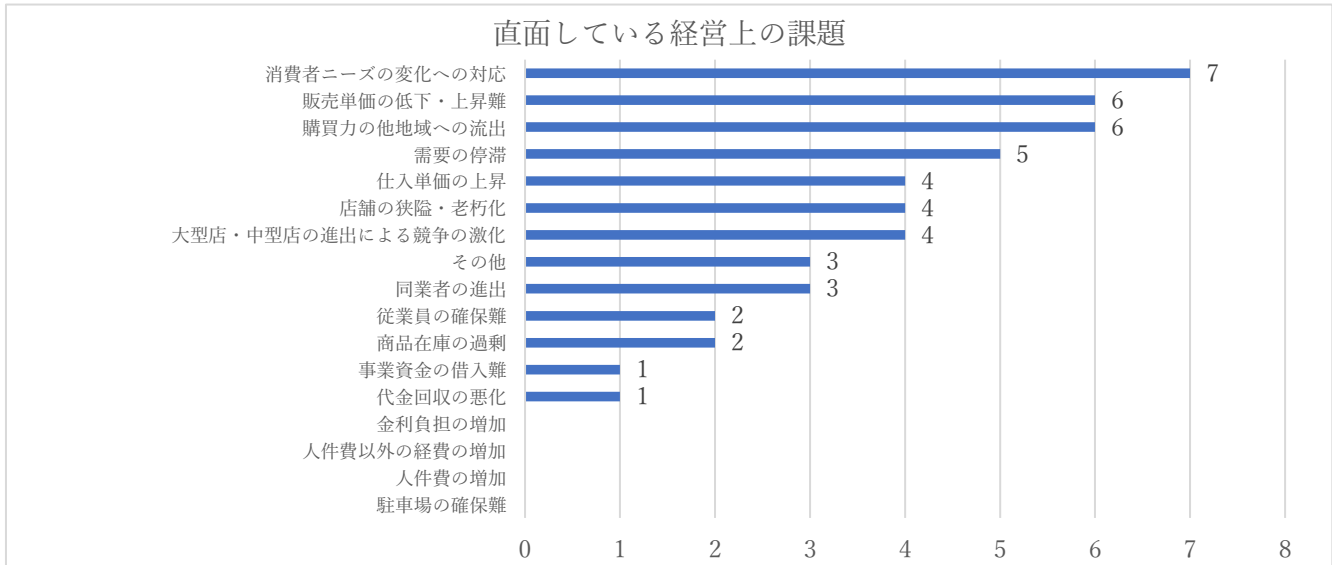
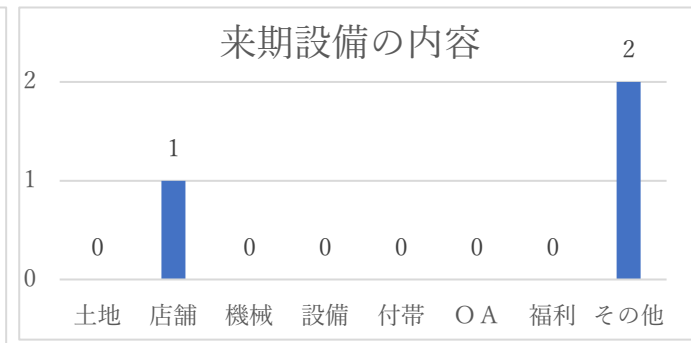
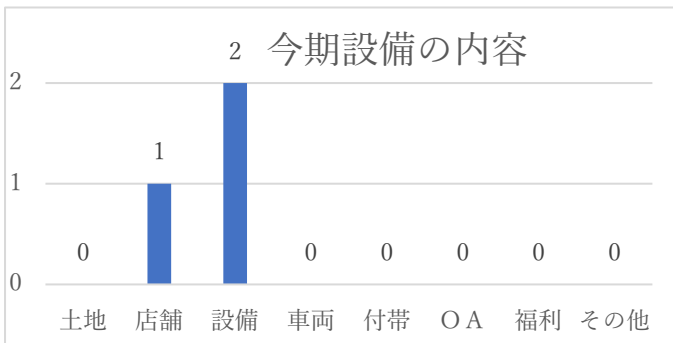
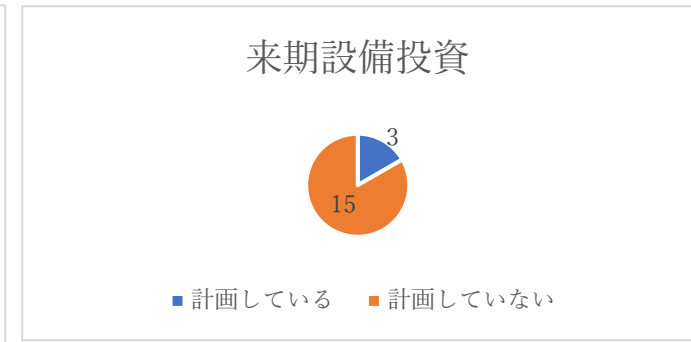
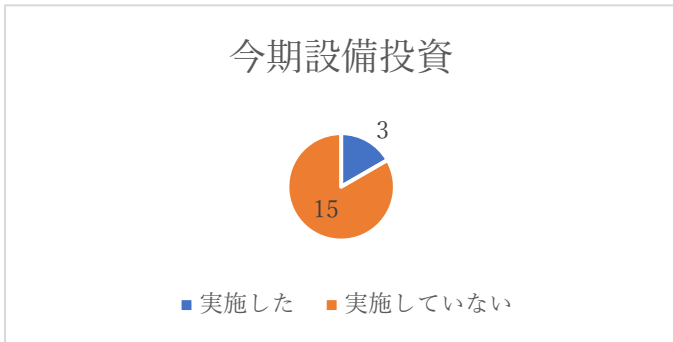
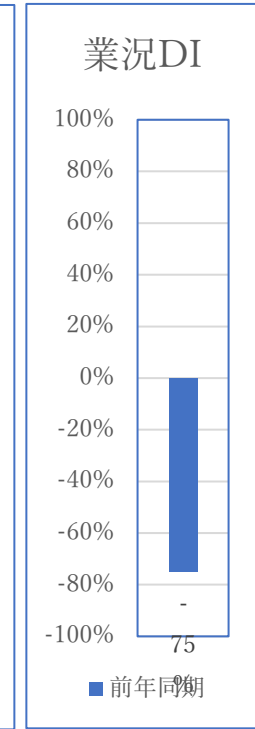
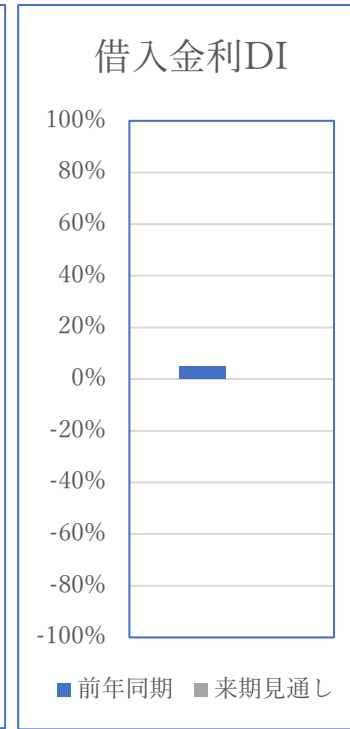
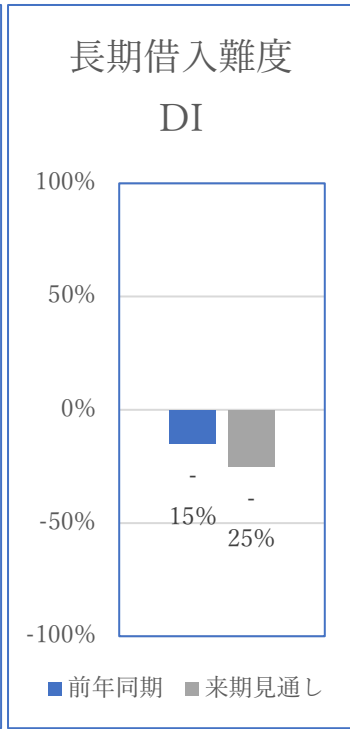
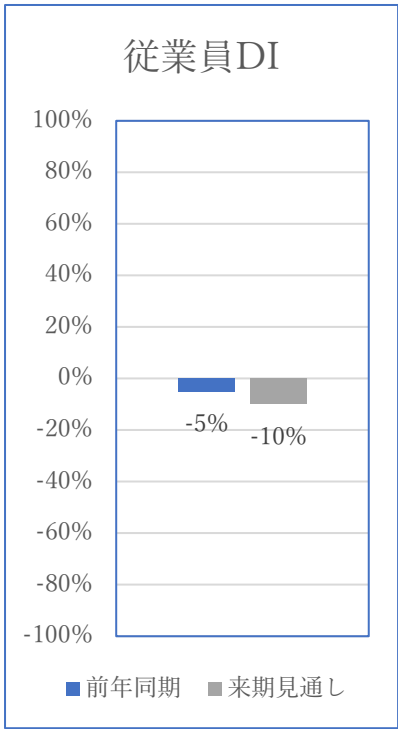


資金繰りDI



商品仕入額DI



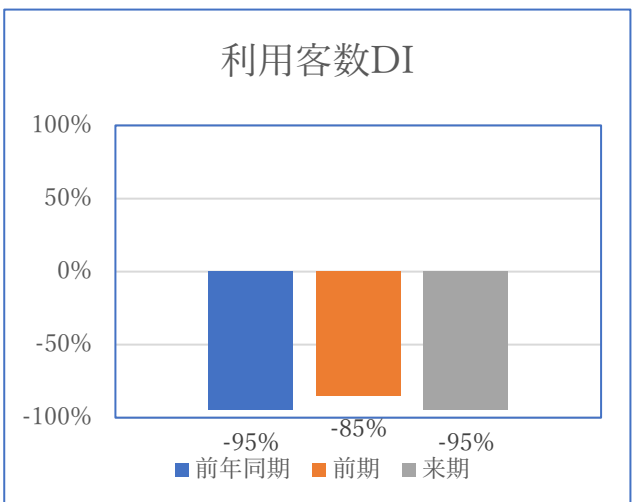
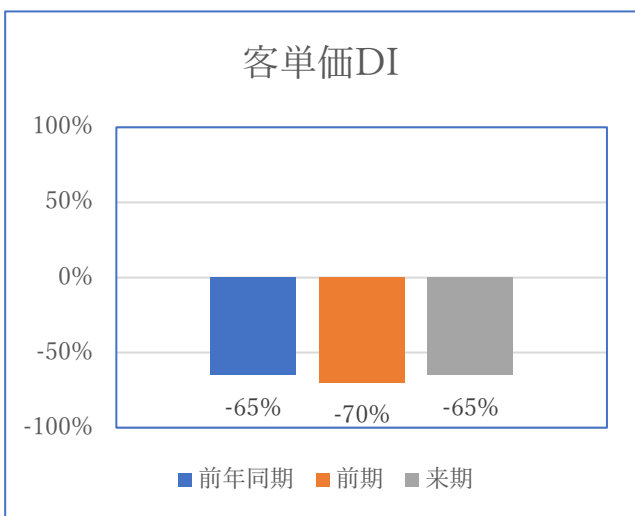
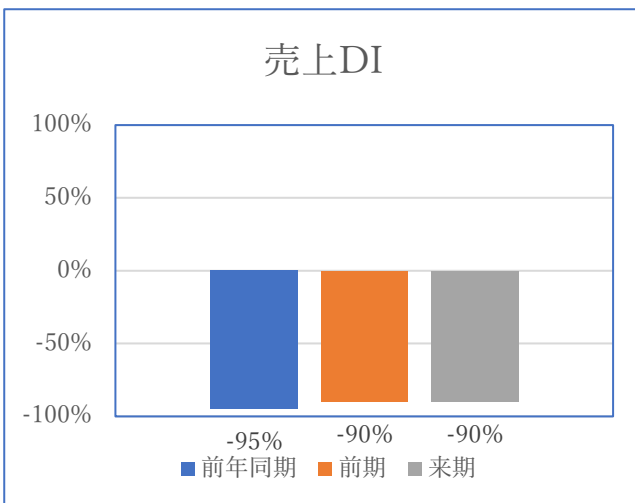
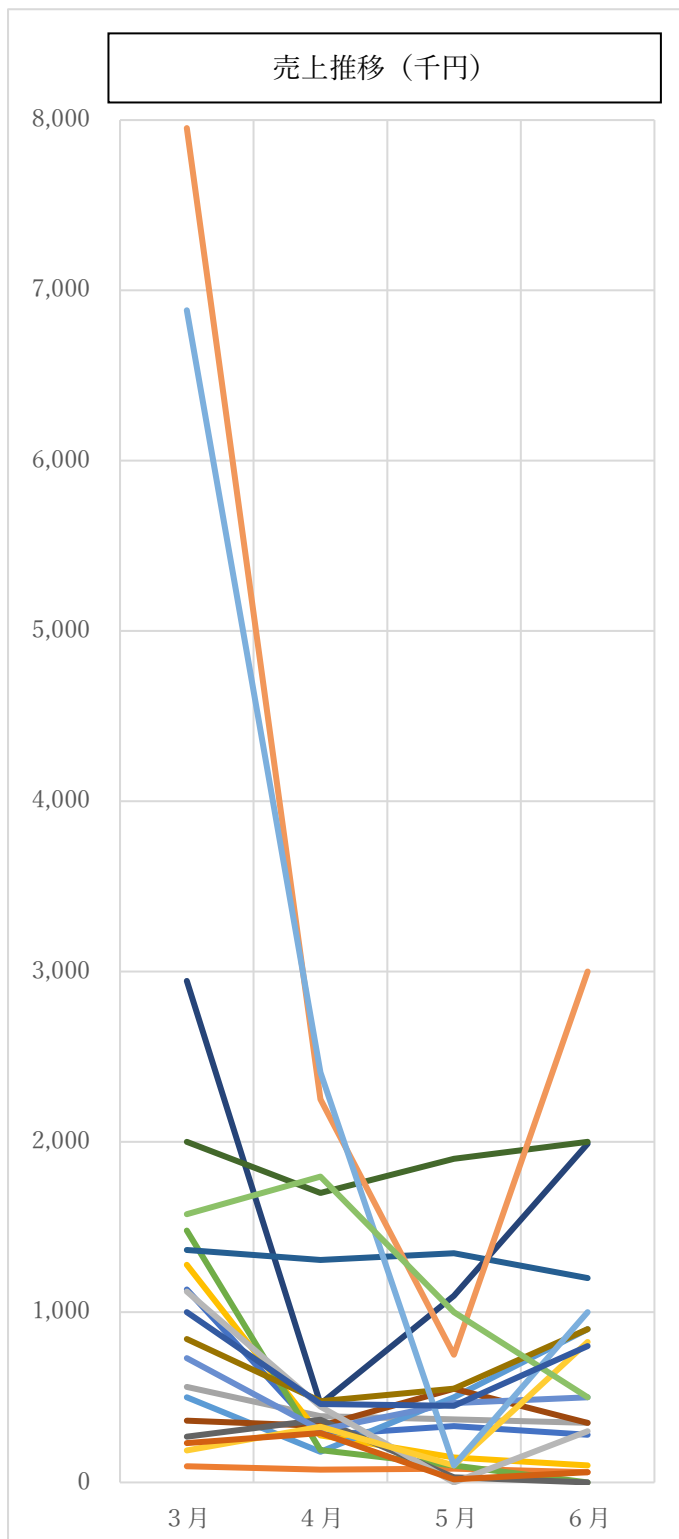


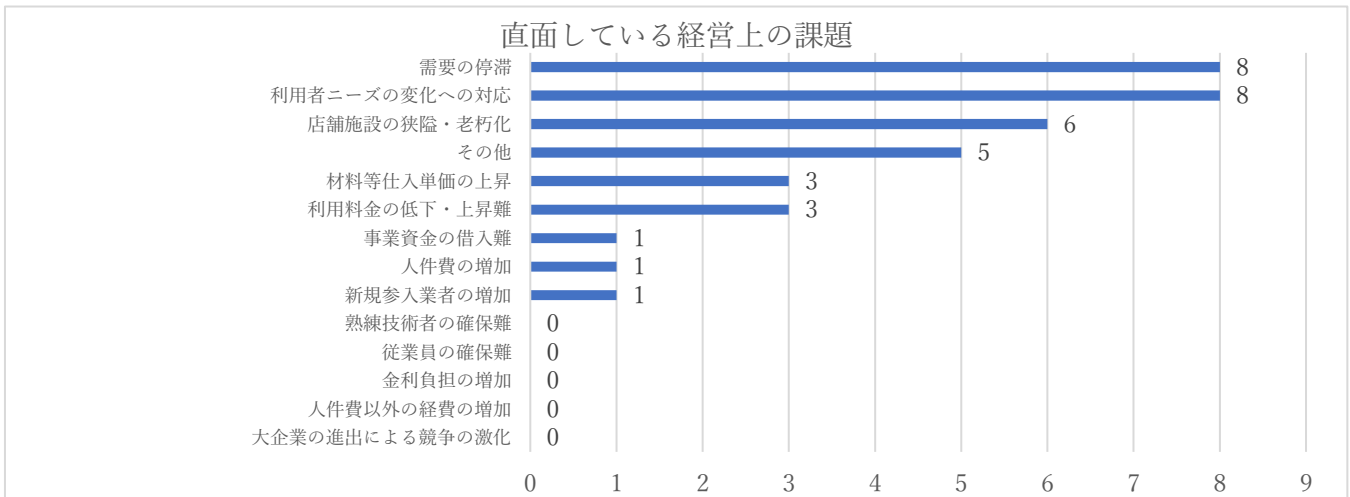
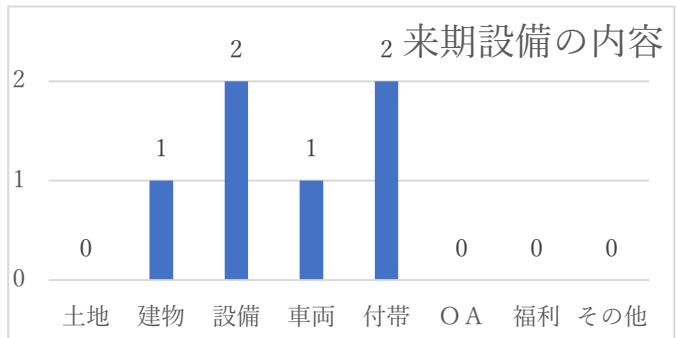
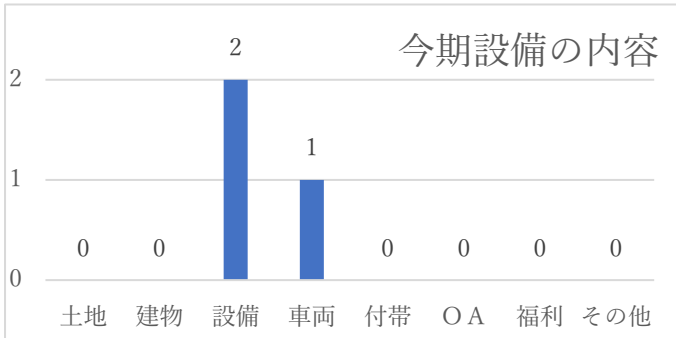
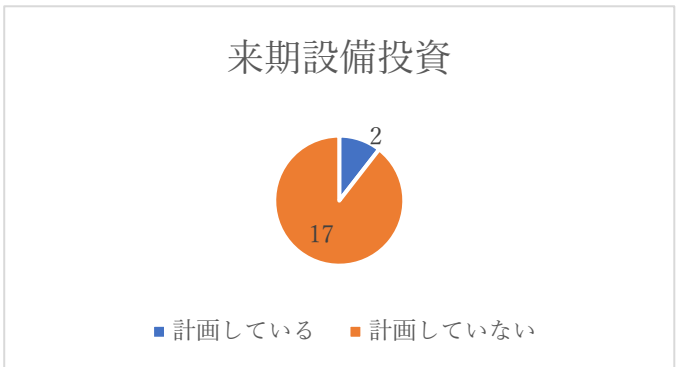
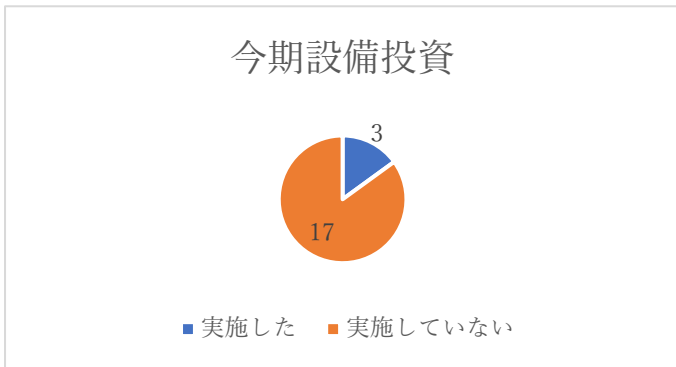
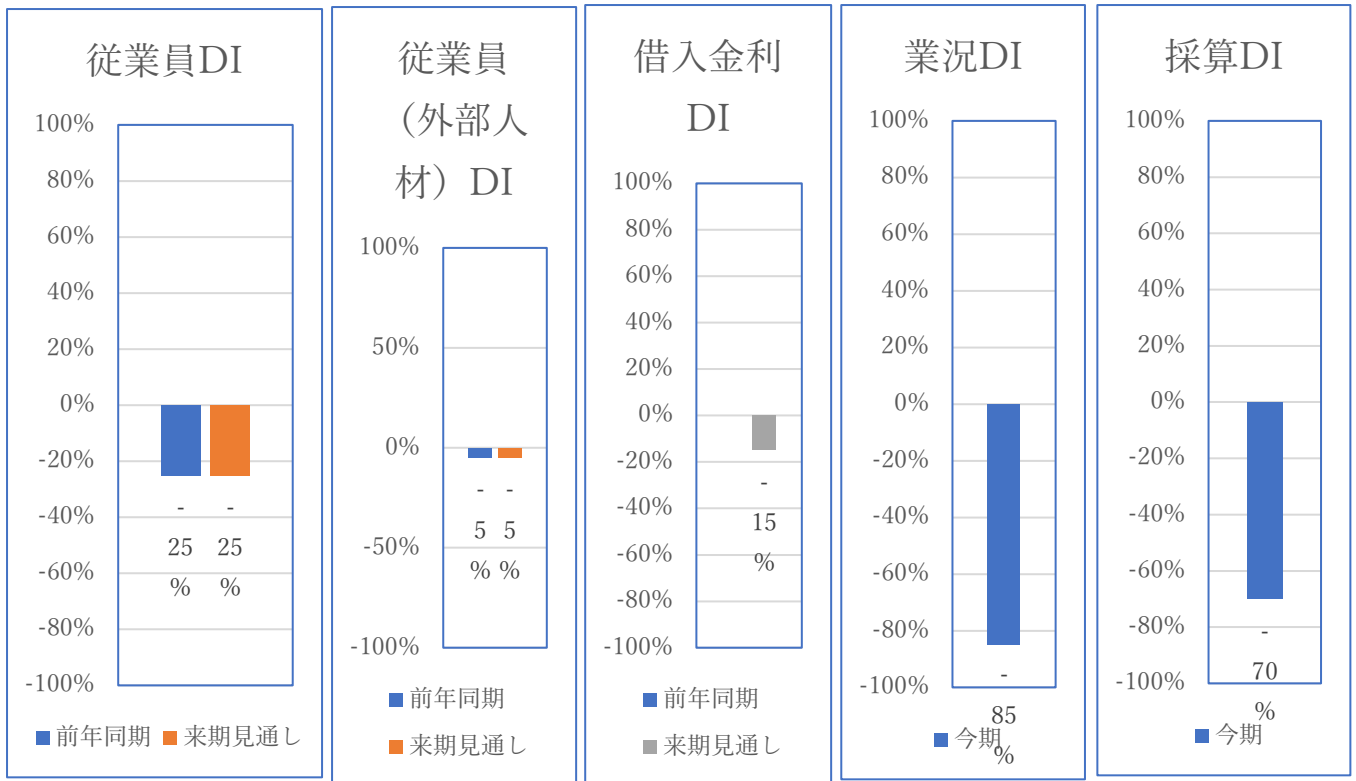


飲食宿泊業（2020年4月～6月）DI値抜粋

コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、全業種の中で最も厳しい状況となっている  
 売上DIは前年同期▲95、前期▲90、今後の見通しも▲90とほぼ全ての事業者が減少となっており極めて厳しい状況である。  
 客単価DIは、前年同期▲65、前期▲70、今後の見通しも▲65と低下しているが、それ以上に客数DI前年同期▲95、前期▲85、今後の見通しも▲95と悪く、外出、観光を控える消費者の動向が影響に表れている。  
 従業員DIでは、前年同期▲25、来期見通し▲25と、なっており、従業員を減らす動きがみられる。  
 設備投資について、現在の売り上げ状況を踏まえて、現状も来期についても低調である。  
 経営課題としては、需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応、店舗施設の狭隘・老朽化を上げる企業が多い。





サービス業（2020年4月～6月）DI 値抜粋

コメント

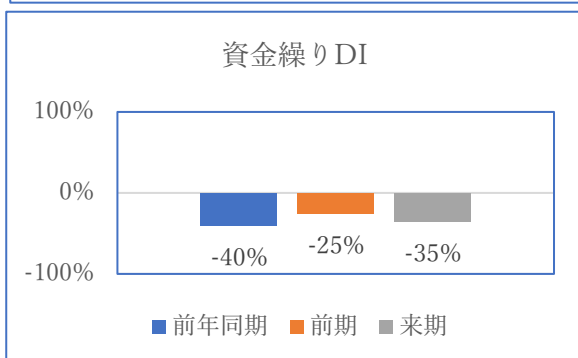
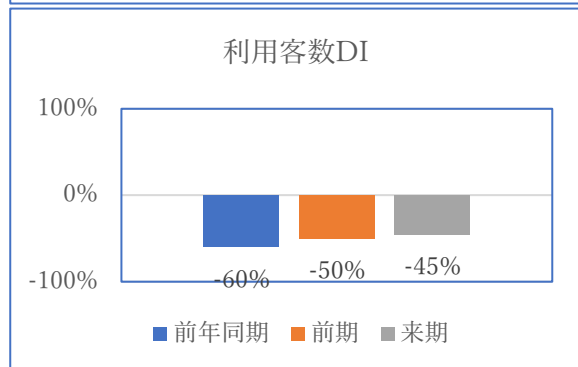
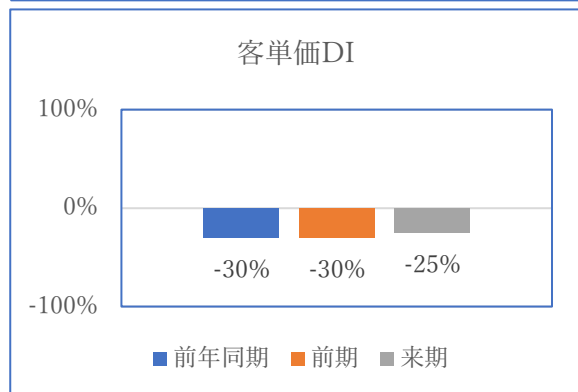
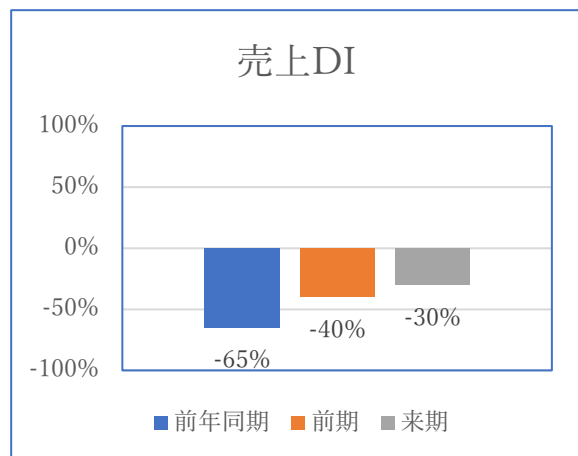
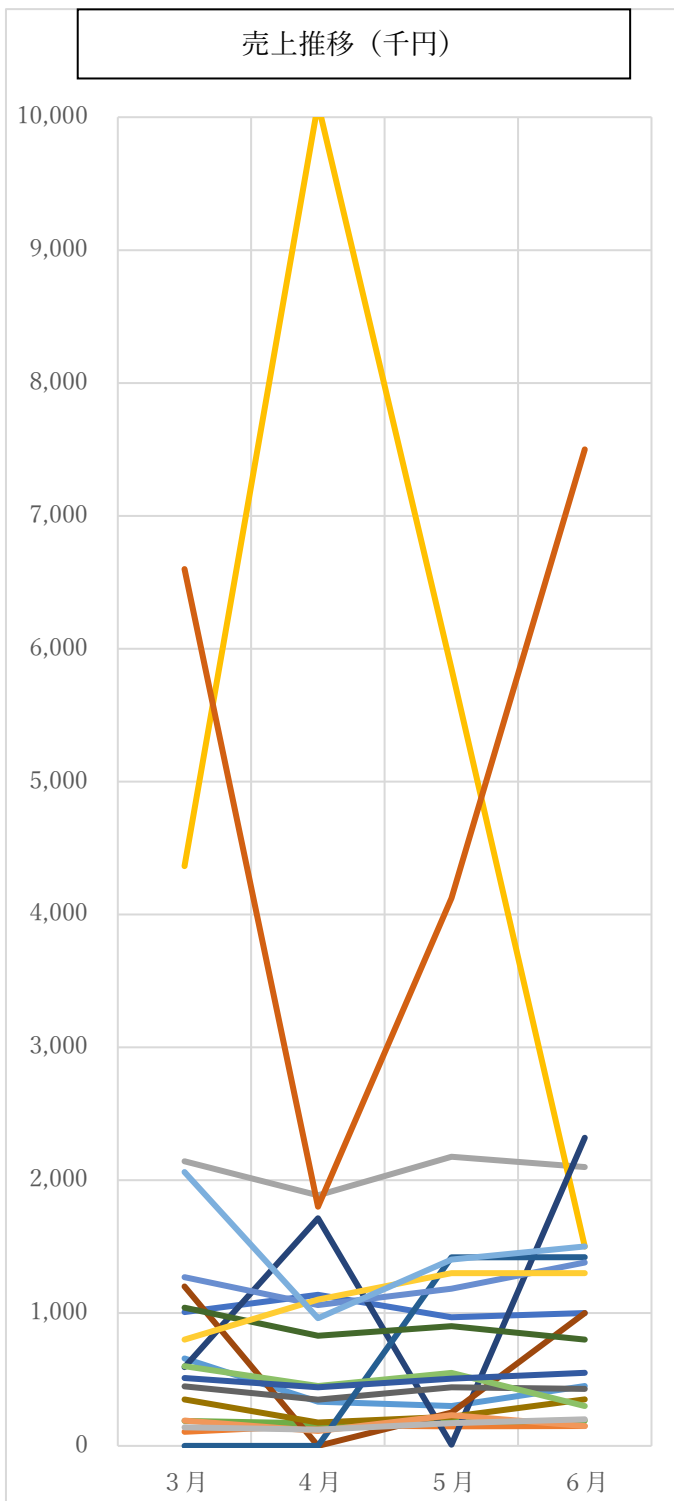
サービス業の業況に関するDIは、足元でのコロナの影響が甚大であるが、来期に向けて改善の兆しが見え始める内容である。

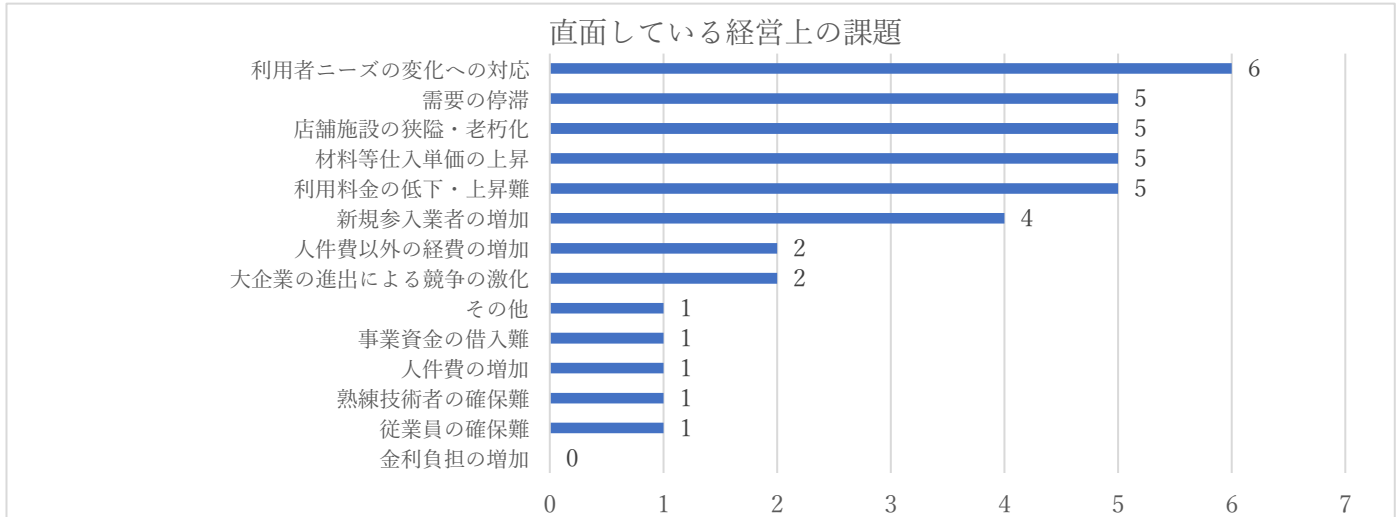
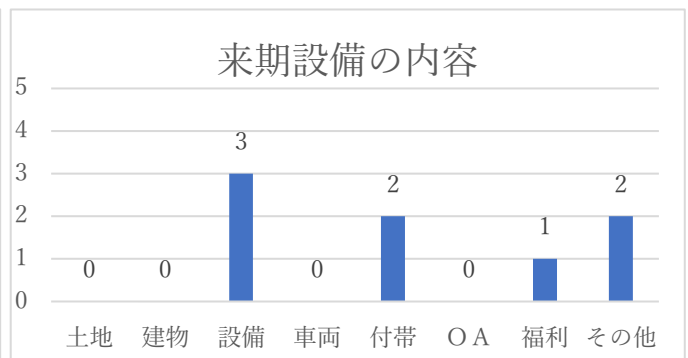
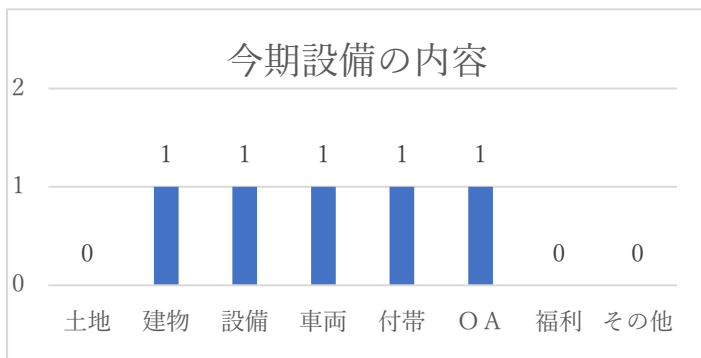
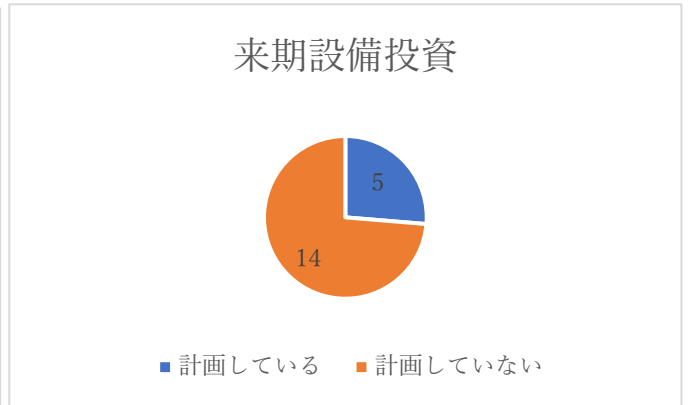
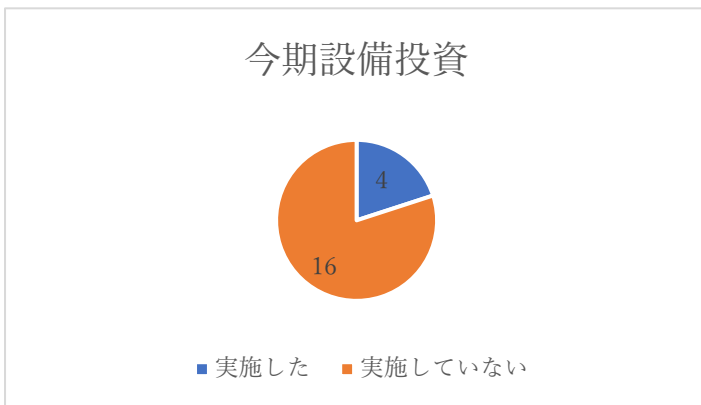
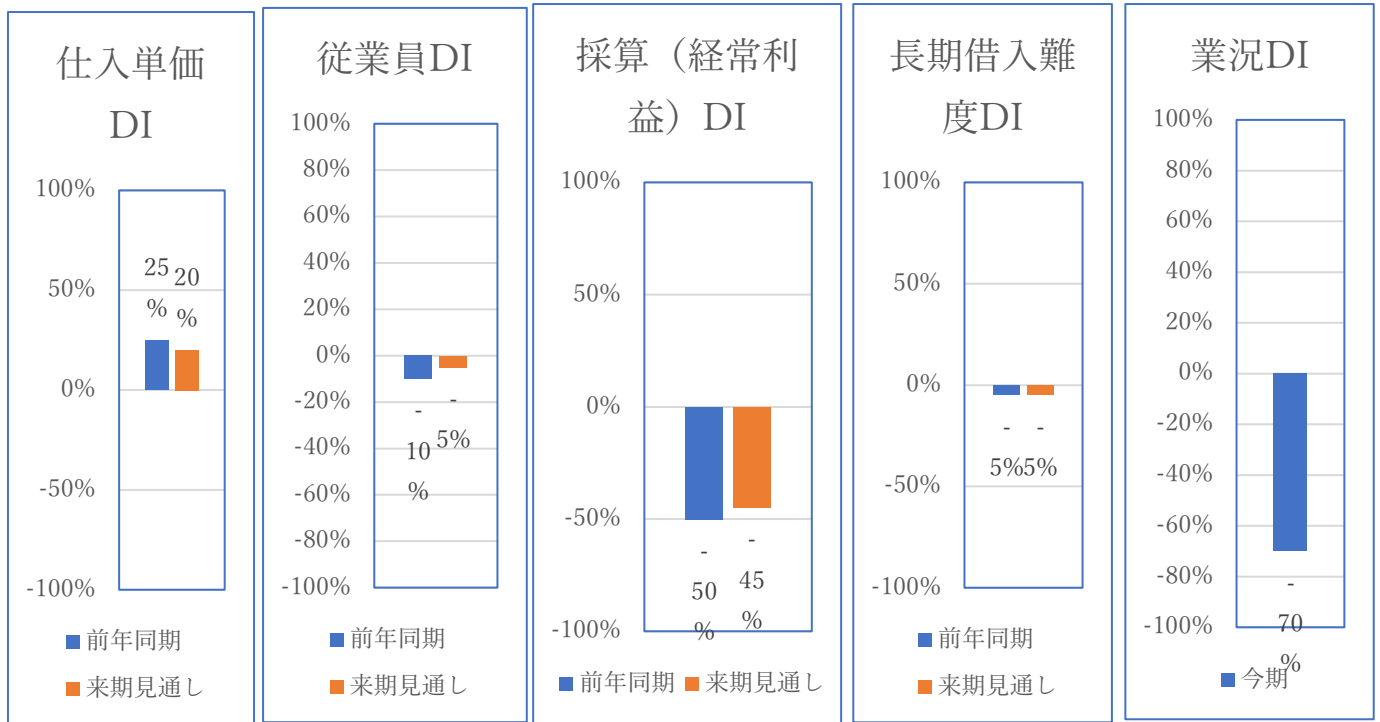
売上DIは前年同期▲65、前期▲40、今後の見通しは▲30 と他の業種に比較して来期には改善の傾向が見受けられる状況である。

客単価DIは、前年同期▲30、前期▲30、今後の見通しも▲25と低下している、客数DI前年同期▲60、前期▲50、今後の見通しも▲45と低調ではあるが、徐々に客足が戻るとの感触である。

仕入額について、前年同期25、来期20とコストアップの状況である。

設備投資について、現状は低調であるが、来期に機械設備や付帯設備の投資を予定する企業がある。経営課題としては、利用者ニーズの変化への対応、需要の停滞、店舗施設の狭隘・老朽化を上げる企業が多い。





# 小規模企業景気動向調査

[2020年5月期調査]

～緊急事態宣言解除も、引き続き最悪に近い水準となった小規模企業景況～

2020年6月29日  
全国商工会連合会

## <調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2020年5月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

## <産業全体> ◇…緊急事態宣言解除も、引き続き最悪に近い水準となった小規模企業景況…◇

5月期の小規模企業の景況は、先月に比べ小幅に悪化となった。産業全体の業況DIは産業全体で▲80.3ptと過去10年間で最悪だった前月から更に悪化し、リーマンショック期の2009年1月期の▲82.5に迫る水準となった。例年ならば繁忙期となるGW期間であるにもかかわらず、緊急事態宣言や各都道府県からの休業要請により全業種にわたり経済活動に深刻な影響が出ている。5月中にすべての都道府県で緊急事態宣言は解除されたが、この先の景気も不透明であり不安は募るばかりである。

## <製造業> ◇…食料品関係の一部が好調も、全体では発注元の休業、生産調整で厳しい状況が続く製造業…◇

先月と比べると資金繰りDIが小幅に改善し、採算DIは小幅に、売上・業況DIはわずかに悪化となった。食料品製造業関連はネット販売を行っている事業者や、外出自粛の為、内食需要が伸びた影響で一部の事業者の受注に回復傾向がみられるが、飲食店の休業や時短営業が相次いだことにより、全体的には受注は激減している。また、機械金属製造業の中で「自動車関連」では海外(主に中国)からの部品調達ができないことや受注元の不振により、生産調整が入った結果、受注量が減少し回復の見通しがたっていない等、厳しい状況は続いている。

## <建設業> ◇…工事中止等の影響で、民需、公需共に悪化した建設業…◇

建設業は、3ヶ月連続で全DIが悪化し、売上及び採算DIの悪化幅は10ptを超えた。大手ゼネコンの方針により、多くの工事が中止となり、部材の調達難から工期に遅れが発生している状況であり、下請業者には影響が大きく、廃業増加を懸念する声が多くみられた。また、行政の新型コロナウイルス感染症関連の予算増が、今後の公共工事の発注減につながるのではとの声も見られた。一方で、前月同様、災害復旧が進展している地域では、工事量は潤沢にあり、また、要請を受けて休業した観光施設等から、休業期間中に改修工事等の発注の動きが見られた。

## <小売業> ◇…取り扱い商品により、新型コロナウイルスの感染症の影響の明暗が分かれた小売業…◇

小売業は、全DIが悪化となったが、先月に比べ、悪化は小幅にとどまった。小売業の中でも取り扱う商品により景況に大きく差が出ており、緊急事態宣言の影響による内食や巣ごもりの需要から、食料品を取り扱うスーパーや、衛生用品を取り扱うドラッグストア等売上が減少していない事業所もあるが、一方で、衣料品や宝飾品等は客足が鈍り、売り上げが大きく落ち込んでいる。

## <サービス業> ◇…緊急事態宣言解除も、先月に引き続き過去最悪の水準となったサービス業…◇

サービス業は、3ヶ月連続で全DIが悪化となった。先月の段階ですでに過去最悪の水準であったので、小幅な悪化にとどまっている。飲食・宿泊業でテイクアウトで奮闘したり、在宅に拠る古着整理等の需要から洗濯業で受注が増加したり、理美容業で月の後半から顧客が戻ってきたりしているとのコメントも若干あるが、それ以外は、飲食業・宿泊業を中心に春の行事やGW等の行楽需要がまったくなくなり、月の後半から緊急事態宣言が解除されたものの、新型コロナウイルス感染症の悪影響を示すコメントがほぼすべてを占めた。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上額	▲74.4	▲78.6	▲4.2	▲82.7	▲83.0	▲0.3	▲59.3	▲70.2	▲10.9
採算	▲71.6	▲75.7	▲4.1	▲79.7	▲81.0	▲1.3	▲56.6	▲67.5	▲10.9
資金繰り	▲72.1	▲74.2	▲2.1	▲79.0	▲77.9	1.1	▲61.2	▲68.0	▲6.8
業況	▲78.6	▲80.3	▲1.7	▲85.6	▲86.4	▲0.8	▲68.0	▲72.2	▲4.2

業種	小売業			サービス業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上額	▲67.2	▲72.1	▲4.9	▲88.3	▲88.9	▲0.6
採算	▲68.5	▲70.5	▲2.0	▲81.7	▲84.0	▲2.3
資金繰り	▲67.1	▲68.1	▲1.0	▲81.0	▲83.0	▲2.0
業況	▲73.6	▲74.9	▲1.3	▲87.1	▲87.9	▲0.8

注) DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。